

先生のお薦め一冊

『ぼくはこんな本を読んできた』

立花 隆 著 (文藝春秋出版)

芸術科美術 野村 明正 先生

社会問題、思想、政治経済、科学、芸術等、幅広い分野を徹底的に取材し、「知」の最先端に触れ続けている著者の本です。

本との出会いは人それぞれでしょうし、自分でするしかありません。私の場合、ある本との出会いがあると、大抵その作家にハマってしまいます。立花隆もその中の一人です。その時々でお薦めの著者があるわけで、お薦めの一冊となると、「ありません。」と答えるしかないのです。また、興味のある分野がある場合、一冊の本のみで済ませるわけがありません。関連する本を数冊は読みあさるのが普通のことだと思いますし、その方が健全な読書法だと思います。

本校を卒業してから本格的な読書生活に入る人が大部分でしょうから、そのときの読書法の参考になればと思い、上記の本を挙げました。また、進学してから読んで欲しい立花隆の本として『脳を鍛える』(新潮文庫)も挙げておきたいと思います。文系の人も理系の人も読んでみて下さい。



*立花 隆 1940年長崎生まれ。64年東京大学仏文科卒。文藝春秋に入社した後、再び東京大学哲学科に再入学し、在学中から評論活動に入る。社会問題のほか科学技術など、幅広い分野における執筆で注目を浴びる。著書に『脳死』『宇宙よ』『サル学の現在』『脳死体験』などがある。

参考文献：『ぼくはこんな本を読んできた』(文藝春秋)



新着図書紹介

『犬たちの明治維新 ポチの誕生』仁科 邦男 著 (草思社)

西郷隆盛が西南戦争の真っ最中に犬連れで兎狩をしていた理由・・・この本を読めばわかります!

『砂子のなかより育き草』宮木 あや子 著(平凡社)

清少納言が牧草子に綴った嘘と真実とは?

『明日の子供たち』有川 浩 著 (幻冬舎)

思いがつらなり響く時、昨日とは違う明日が待っている!・有川ワールドをお楽しみください!

『リンゴも人生もキズがあるほど甘くなる』外山 滋比古 著 (幻冬舎)

『小森谷くんが決めたこと』中村 航 著 (小学館)

『ソボちゃん いちばん好きな人のこと』有吉 玉青 著 (平凡社)

『おわらない音楽 私の履歴書』小澤 征爾 著 (日本経済新聞出版社)



